板書例

5　桑の木の葉を見て

・「角を一つ一つ先へ……そわそわとさせた」で、秋の雰囲気が強調される。

「いつまで行っても、先の角はあった」

5 と 6 は時間・場所が連続した場面

蜂：土の下に死骸が行く？
ねずみ：海岸に死骸が行く？
↔ 偶然の差
自分：今歩いている

⇦ 主人公はいもりが死んでいく過程を見て、生と死のつながり、連続性（偶然の差）を意識した。

6　いもりを見て

・いもりを見ての直接の感想
いもりを驚かせようと石を投げる。

偶然石が当たり、偶然いもりは死んでしまう。

⇦ 主人公はいもりが死んでいく過程を見て「かわいそうに思うと同時に、生きものの寂しさ（＝生死が偶然で左右されること）をいっしょに感じた。」

・いもりを見て連想したこと
寂しい気持ちで温泉宿へ帰る

7　城崎温泉から帰って

「三週間いて、自分はここを去った」
→なぜ三週間で切り上げた？
答　我慢できなくなったから。
→何に我慢できなくなった？

まとめとして

①この作品のテーマは何？
答　死と生は偶然の差でしかないという死生観。

②1～7の意味段落を、作品のテーマを意識してまとめるとしたらどうまとめられる？
答　第1段：1・2
第2段：3
第3段：4
第4段：5・6
第5段：7

③主人公は何に我慢できなくなったのだろう？
答　自分が死と向き合う場であるという重さに我慢できなくなった。